

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域 社会医療総合医学教育研究分野 氏名 糟谷 昌志
指導教授氏名	若林 孝一
論文審査担当者	主 査 漆館 聡志 副 査 東海林 幹夫 副 査 松原 篤
<p>(論文題目)</p> <p>地域在住中高齢者の認知機能とメタボリックシンドローム及びロコモティブシンドロームとの関連性の検討</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>本研究の目的は、地域在住の 60 歳以上の者を対象として、認知機能とメタボリックシンドローム（以下、メタボ）およびロコモティブシンドローム（以下、ロコモ）との関連を検討することである。</p> <p>岩木地区在住の男性 101 名、女性 167 名を調査対象とし、認知機能検査、メタボ評価指標およびロコモ評価指標の測定を行った。認知機能検査には、Mini-Mental State Examination (MMSE) と「論理的記憶Ⅱ」を用いた。メタボ評価指標には、腹囲、収縮期・拡張期血圧、血中脂質、血清血糖を測定した。ロコモ評価指標には、ロコモ 25、2 ステップテスト、立ち上がりテストの測定をおこなった。メタボおよびロコモ評価指標と、認知機能との関連を検討するために、統計学的解析を行った。</p> <p>結果は以下のとおりであった。メタボ評価指標の該当合計数で、女性のみ該当数が 1 の者が、該当数が 0 の者よりも MMSE が低かった。ロコモ評価指標では、男性ではロコモ 25 および 2 ステップテストで、ロコモに該当する者の方が有意に MMSE が低かった。また、論理的記憶Ⅱにおいて、男性は立ち上がりテストにおいて有意差が認められ、ロコモに該当する者の得点は低かった。MMSE、論理的記憶Ⅱともにロコモ該当数で有意な群間差が認められ、ロコモ該当数の多い者は得点が低い傾向にあった。</p> <p>本研究において、認知機能とメタボの評価指標に有意な関連はみられず、男性にのみ認知機能とロコモ評価指標との間に関連が認められた。以上より、ロコモ評価指標は男性において認知機能低下の予測因子として有用であることが示唆された。本研究は男性においてロコモと認知機能との関連性を明らかにした初めての研究であり、学術的にも意義が大きいと、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	弘前医学に受理（平成 30 年 1 月）